MARITIME　INTERNATIONAL 2016　　第４号　2016/9/27

〈東京都立大島海洋国際高等学校　　TEL:04992-4-0385　FAX:04992-4-1764〉

メールアドレス：kaikoku@section.metro.tokyo.jp

HP アドレス：http://www.osima-kaiyokokusai-h.metro.tokyo.jp

カッター部全国大会準優勝

７月 23, 24 日に平成 28 年度第 18 回全国水産・海洋高等学校カッターレース大会が青森県八戸市で行われ、カッター部が出場しました。昨年度、あと一歩で優勝を逃した悔しさをバネに、一年間優勝を目指して頑張ってきましたが、結果は惜しくも準優勝でした。

決勝は本校、京都海洋高校、熊本苓洋高校、浜田水産高校の 4 チームで争いました。優勝した京都海洋高校は力強さ、オールの合わせともに脱帽の完成度でした。2 位から 4 位まではほんの数秒の間で 3 艇が競り合う超接戦でした。本校は離島のため試合経験を積みにくく、接戦では競り負けることが多いのですが、何とか 2 位を堅持することができたのは、今年のクルーの並々ならぬ努力あってのことだと思います。非常に良いレースでした！

留学生紹介

今年度の留学生は、ホンジュラスのエリザベス・コラレスさんです。8 月 21 日来島し、9 月 1 日より 2 年A組に入っています。Elizabeth さんの休業後集会での自己紹介全文を掲載します。

（スペイン語）　Buenos días a todos. Les agradezco por darme la oportunidad de estar aquí hoy frente a ustedes. Mi nombre es Elizabeth Corrares y he venido de un país llamado Honduras, localizado en el centro del continente Americano. Como pueden notar, mi primer idioma es el español pero tambien puedo hablar inglés.

（日本語：原本はローマ字でした）

みなさんはじめまして。本日はこのような機会をもうけてくださりありがとうございます。私の名前はエリザベス・コラレスです。私は１７歳でホンジュラスという国から来ました。ホンジュラスは中央アメリカに位置しています。母国語はスペイン語ですが、英語も話すことができます。私はここへ日本の文化、そして言語を学ぶために来ました。まだ来日してから１週間しかたっておりませんが、私は既に多くの日本の文化を体験することができました。そして私はこの日本の学校生活、また文化祭という独特の行事にとても興味があり、今から楽しみにしております。この学園の皆さんと短い期間ではありますが、たくさんの思い出を作りたいと願っております。そして少しだけでも皆さんにホンジュラスの文化を知っていただければ嬉しいです。よろしくお願いします。

潜水部　全国大会総合３位

８月 22 日・23 日に茨城県ひたちなか市で行われた第 19 回全国水産・海洋高等学校ダイビング技能コンテストに出場した潜水部が、総合３位となりました。

女子の部の個人賞で１位のものは 50ｍフリッパー（今西）、200ｍﾌﾘｯﾊﾟｰﾘﾚｰ（今西・牧野）、オクトパスﾌﾞﾘｰｼﾞﾝｸﾞ（中村・渡邊）で、２位３位のものと合わせて賞状 12 枚、盾９枚の表彰がありました。部長の感想を掲載します。

全国大会に参加して　　２年Ｂ組　柳田　有斗

「全国大会といえど競技人口が少ないから自慢にならないでしょ。」と海国生は言います。確かに野球やサッカーと比べて予選などもないので、はるかに容易いことかもしれません。しかし、北は北海道、南は沖縄県まで海を持った約 20 の都道府県から高校が集まります。中学生の時に出場した都大会などとは、雰囲気が全然違いました。

他校との選手席が近いことや、ホテルが同じということもあって、たくさん交流することが出来ました。競技前の待ち時間に話した宮城県の高校の人には震災が非常に大変だったことを聞きました。ホテルの部屋が同じだった沖縄の人には、方言や食べ物のことを聞き、お風呂で仲良くなった富山県の人には、雪の積もり方が尋常じゃないことを聞きました。本場の人に聞いたリアルな話は面白かったし、みんなに大島の良さを伝えられたのもいいことでした。

競技自体は３年生が１人も出ないという海国でしたが、上位入賞や海国記録、そして大会記録が何度も出るほど、良く競技に取り組めました。しかし、それとは逆に練習でかなりいい記録を出していて、同じようにやれば一位という人でも、本番ではうまくいかず悔し涙を流す人もいました。自分の実力はこんなものではない、という悔しさはかなり大きなものでした。総合で３位という結果でした。優勝できなかった悔しさは残りますが、ベストダイバー賞や大会記録、筆記コンテスト２位など、輝かしい成績と共に全国大会で誉められた経験はとても大きなものだと思います。計 14 日間に及んだ地獄の合宿、そして全国大会、人生で一番つらい夏休みで、人生で一番熱い最高の夏でした。

セーリング部インターハイ出場

和歌山県で行われるインターハイセーリング競技にセーリング部の女子が出場しました。8 月 12 日が開会式で、16 日まで競技が行われました。24 艇中 19 位という成績でしたが、一時は 10 位で航走する場面もありました。3 年生の感想を掲載します。

インターハイに出場して　　3 年 B 組　塚田麻理

私は、今回のインターハイが 2 回目の出場になります。昨年出場したときは、先輩と一緒に試合に挑みました。そのときは、「まだ来年があるから、試合を楽しめばいいや」と軽い気持ちで出場していました。しかし、今回は「この大会が終わったら引退」という思いが強かったです。

とても緊張していましたが、インターハイに一緒に挑んでくれた網谷先生、後輩 3 人に背中を押され、試合を今までで一番楽しむことが出来ました。しかし、悔しい思いをたくさんしたので、後輩には来年のインターハイに今回の経験を活かしてほしいと思っています。私は、大島海国セーリング部としてインターハイに出場出来たことを誇りに思っています。私だけの力では、この大きな舞台に立つのは難しいものでした。顧問の先生方、部員、今まで一緒に乗ってくれたペアの 3 人、両親、そして応援してくださったすべての方のおかげです。素晴らしい舞台で引退できて幸せでした。ありがとうございました。

南鳥島観測航海

9 月 3 日より 2 週間の予定で南鳥島への観測航海が行われました。東京大学ほか研究者の方々も乗船されました。台風の発生が危ぶまれていましたが、南鳥島に着いたものの研究者の方々は島に接近できませんでした。日本近海に台風が発生し、台風避難の日程も生じることから、南鳥島の周囲 4 点で CTD 観測を行い帰途につきました。ジャイロコンパスの修理等もあり、16 日に下船しました。生徒の感想文を掲載します。

観測航海を終えて　　3 年 B 組　駒崎　海里

今回、南鳥島への観測航海に参加して貴重な体験をさせていただくことが出来ました。中でも 24 時間ワッチでは、操舵や見張り、GPS を使っての位置出し、気象通報などたくさんのことをやりました。ワッチに入りたてのころは注意されることが多かったのですが、6 人全員で協力して反省点や改善点を出し合っていくことでだんだん動けていくようになり成長することが出来たと思います。また、ワッチ中に流れ星を見ることや、船員さん達から様々な話を聞いたりする機会もあったので本当に良い体験が出来ました。

また、観測航海と共に東大チームの研究員の方々に乗船していただきました。南鳥島の研究をするということで共に乗船し、掃除や食当だけでなくヤシズリも一緒にやっていただいたことが記憶に残っています。実際に研究チームの先生方に授業もしていただきました。自分たちの海洋観測の結果に御意見を言っていただいたのもよい体験でした。

私にとってこの南鳥島への観測航海が高校最後の乗船実習でした。三年間の集大成ということで非常に内容の濃いものになったと思います。そんな乗船実習でたくさんのことを学ぶことが出来ました。仲間と協力すること、常に次の行動は何かを考える重要性、けじめのある行動。どれもこれも自分を成長させてくれるものになりました。その中でも一番学んだことがあります。

それは何事にも挑戦しようとする心です。船に関して知識のない自分は何をすればいいか、どこをどう手伝うことができるのかわかりませんでした。先生の『やらないで怒られるな。やって怒られろ！』という言葉を胸に積極的に行動することが出来ました。私はこの体験を生かし、この先頑張っていきたいです。

最後になりましたが、共に乗船した仲間や教官、船員さん方、そして大島丸。本当にありがとうございました。

学校祭

9 月 23 日のカッターレースは雨天が予想されたので残念ながら中止としました。

24・25 日は海国祭を実施しました。多くの方に御来場いただき、盛況でした。御来場の方々にアンケートを実施し、最優秀クラス企画に「3 年 B 組：Snow princess ／思い出」、最優秀有志企画に「SHAKE：SHAKE ROCK」　が選ばれ、表彰しました。

文化祭実行委員長 3 年 A 組松原真人君よりの一言です。「今年の海国祭も皆様の協力があり無事に終わりを迎えることができました。今回は生徒ひとりひとりが主役となれたいいものになっていたと思います。来年も心に残るような最高の海国祭になるようご協力お願いします。皆様おつかれさまでした。」

訃報　　大島丸通信長　小野尚志氏　７月２６日に亡くなられました

昭和 59 年 4 月より大島丸の次席通信士として勤務され、通信業務の他、甲板作業にも従事されてきました。観測作業にも中心的に関わってくださり、実習を支えてくださいました。甲板長を兼務する時期もありました。平成 27 年 4 月より通信長となりました。秋より体調を崩され、治療しておられました。今年 3 月には、治療しながら勤務するという話にもなりましたが、今となってはかなり無理をされていたのだと悔やまれてなりません。7 月 29 日に福島県の御自宅にて密葬が営まれました。53 歳でした。33 年間勤務されました。御冥福をお祈りいたします。